



# 愛知県立旭丘高等学校漕友会会報

## 秋季臨時会報

平成 20年 10月 25日 発行

発行者: 〒461-0032 名古屋市東区出来町3丁目6の15

愛知県立旭丘高校内 愛知県立旭丘高等学校漕友会

TEL:052-721-5351

FAX:052-723-6825

事務局e-mail: yyyama@z2.zzz.or.jp 山本芳敬(旭丘27回)

chu@ma..ccnw.ne.jp 丹羽忠司(旭丘8回)



### 臨時「漕友」の発刊にあたって

漕友会会長 長谷川誠



秋も深まり、紅葉の便りが聞かれるこの頃ですが、会員の皆様お健やかに過ごしていらっしゃいますか。

米国に始まった金融問題は、株の暴落を招き、金融機関の破綻防止などの施策と信用不安拡大の懸念がせめぎ合いを続けています。

汚染米の流通・異常気象・プロ野球の結末などの他に、今年は、四人もの日本人が、ノーベル賞を受賞されるなど、話題に事欠きません。

そんな中でも、各地で伝統の秋祭りが、昔のままに繰り広げられています。

昔のままの行事が衰えることなく続いているという話題は、私たちに何かしら心の安らぎを与えてくれます。

私ども漕友会の年間の行事も、余り代わり映えしませんが、後の頁に報告がありますように、順調に進んでおります。

琵琶湖遠漕には、旭丘4期の吉倉氏が東京から初参加して下さいました。

8月末には、私ども漕友会が、津高校の艇友会を迎え、中川運河で対抗戦を行いました。これには百数十名が参加してとても盛大でした。

現役選手達も毎日々々、元気一杯、練習に励んでいます。

漕友会の皆様にとっての「ボート」は、昔と変わらなくて、変わってもらいたくなくて、ずっとずっと続いて欲しいものの一つに違いないと思います。

ボートに凝縮される青春の思い出を甦らせ、心や身体の青春を甦らせるには、自らオールを握るのが一番であろうと思います。

多くの皆さんがボートへの帰趨を心掛みて下さるようお勧めします。  
そして、より一層後輩達の活躍をご支援下さるようお願い致します。

最後に、年会費納入をお忘れのお方は、この機会に是非ご納入をお願い致します。  
更に、来年以降の現役生徒への艇寄贈に備えて、応分のご寄付を賜れば幸いです。

## 琵琶湖周航に参加して

4期 吉倉孝也

“青春”まさにその真っ盛りの中にいた。

それは8月2～3日、恒例の琵琶湖遠漕に参加し、57年前の名古屋レガッタ当時の5番に座らせて貰い漕いでいたときである。

〔漕友9号〕で渡辺君の琵琶湖周航のすすめを見て、今年は参加出来そうだと思います。3月に連絡した。以前からぜひ参加してみたいと思っていたものの、皆さんに迷惑をかけてはと半ばあきらめていた。6年前に抗がん剤を打った時から副作用で足がしびれ、素足で歩くのに不安があり、ボートの中を歩いて移動して落ちでもしたら皆さんに迷惑をかけると不参加と決め込んでいた。

昨年暮れから足の裏に少しずつ感触が戻って来て、これなら参加出来そうだと思うようになってきた。渡辺君に励まされて連絡後、約半年琵琶湖を想定しながら腹筋、ショルダー、チェスト、レッグ、ストレッチ等を週3回行い、若干の自信を付けて出発した。

前日、当時整調として一緒に漕いでいた3期の故永野先輩のお宅を訪問し、琵琶湖で漕ぐ事を報告し、名古屋で旧友に会い万全の体制で近江今津へ、そして翌日皆さんに会い5番に座らせて貰った。

今津を出発してしばらく漕いでいると、永野先輩の声が聞こえてきた。「俺に合わせろよ」何度も何度も言われたことがよみがえって来た。正にそこに10代の自分がいた。

クルーの皆さんが気を遣ってくれて何一つ心配する事なく遠漕をやり遂げることが出来た。ということは、この行事は誰でも参加でき、そしてある時代に戻って、又これからの人生に希望と自信を取り戻す事の出来る良い機会であると思う。ぜひ、一度参加されたらとお薦めする。

さて、冒頭に青春と書いた。私は転勤の多かった人生の中で、昭和59年にある会社の社長室でダグラス・マッカーサーの座右の銘だと注書きされた“青春”という詩に出会い魅せられて、友人や会社内でPRした事があり、後にこの詩がサムエル・ウルマンのものであることが分かったり、又、松下幸之助の別の“青春”に出会ったりした。ウルマンの詩は長文なので松下氏の文を載せる。

青春とは心の若さである。  
信念と希望にあふれ勇気に満ちて  
日に新たな活動が続ける限り  
青春は永遠にその人のものである。

松下幸之助

今、ボートを漕ぎ終わって75歳を前にしてこれまでの生きざまを再考し、これからも行けるという自信を持つことが出来た。長谷川会長を始め丹羽さん、尾関さん、伊神さん、谷村さん、伊藤さん、友松さん、千田さん、深山さん、そしていろいろ世話を焼いてくれた渡辺さん、有難うございました。又、帰宅後も沢山資料を寄せて頂き、中でも谷村さんの本でフルンケルを思い出し、名古屋が一層身近になりました。

皆さんの益々のご活躍を祈ります。



写真は竹生島をバックに5番を漕ぐ吉倉氏、一番手前は(7期)長谷川会長

## 第16回旭丘漕友会と津高艇友会対抗レガッタ 旭丘勝つ！

12期 伊藤 壽洪

前日までの雨模様が一転快晴になった日曜日8月31日。2年ぶりの対抗レガッタが名古屋中川運河のいろは橋袂で開催された。前回2年前は津高艇友会が主催して、奥伊勢漕艇場で開かれた。当時の津高艇友会の勢いに、現役は1-2で負け、OB戦はかろうじて引き分けた。今回はその屈辱を晴らさんものと頑張り、現役は3戦全勝。OB戦は4対3で辛勝した。総合で7対3であり快勝の部類であろう。このレガッタの参戦記をここに記す。

### 1. 大会前日

時間雨量147mmの岡崎豪雨以来天候が優れず、雨が続く中、明日のレース準備のため午後艇庫に集合し、使用ナックル艇の運び出し、リギングを行う。平田漕艇センター事務局長と片山顧問がスタート及びゴールのブイ張りに雨の中、モータボートを走らす。山本顧問が大型テント4張を運び込む。其れを全員で立てる。準備終わりごろ雨が止む。ナックル艇をテントの中に格納する。17時ごろ解散。

### 2. 大会当日

8時艇庫集合予定。7時半ごろから続々と集まる。対抗戦の看板を玄関先に立て、旭漕会の旗をフェンスに張る。皆で寄って集って準備する。津高も続々と集まり対抗戦の熱気が伝わってくる。朝日新聞の朝刊に対抗戦の記事が大きく出て、その記事があちらこちらに張られ、盛り上を煽る。日章旗、両高校ボート部の旗が掲揚台のポールにはためく。

9時からの開会式に岡田順一旭丘高校長、渡辺久孝津高校長も臨席され、100名以上が参集した。

45期の森田君の司会で始まり、長谷川会長の挨拶、丹羽競漕委員長の話の後カップ返還、選手宣誓後、レースになった。10時に始まったレースは15分毎に進行していった。途中、中日新聞、CBC、朝日新聞の記者がインタビューに現れ、大会の雰囲気盛り上げた。津高現役は一年生主体と言うハンデもあり、旭丘現役は順調に勝ち進んだ。

OB戦は3対3の互角で進んだ中、OB戦最後のレース65歳以上ナックルに勝負が掛かった。津高は中原会長、吉川前会長がメンバーであり、旭丘も負けず、長谷川会長、丹羽幹事長、尾関副会長がメンバーの乾坤相打つ一騎打ちになった。結果は地の利に勝る旭丘が勝ち、OB戦を征した。

最後のレースは現役のコードルプルで2年生主体の旭丘が見事な漕法を見せた。13時前に全てのレースが終わった。

### 3. 懇親会

懇親会は丹羽幹事長の提案で、昔懐かしいヒチリン20個連ねてバーベキューをやることになった。120人がテント中で一堂に会して始まった。中原津高艇友会会長の挨拶の後歓談に入った。津高艇友会からは寸志のほか、高級松阪牛肉8kgの差し入れもあり、参加者全員松坂牛の美味を賞した。2時間にわたる歓談の後、両校校歌、部歌を歌いお開きとなった。津高艇友会メンバーとは次回の三重県における再戦を約し、名残惜しく散会した。



大テントの下での懇親会風景



旭丘漕友会と津高艇友会の選手たち  
—名古屋市港区、遠藤啓生撮影

**旭丘高勝ち越し**  
津高とレガッタ

晴天に恵まれた31日、県立旭丘高と三重県立津高の親睦対抗レガッタがあった。両校合わせて100人以上が参加し、水上で艇を走らせた。親睦が大きな目的の一つだったが、レースが始まると熱戦が相次いだ。年代別で競い合い、結果は、現役、OBとも旭丘高が勝ち越した。

65歳以上KF・向こう側1着でゴールする旭丘漕友会クルー  
S 長谷川(7期) 3 伊神(12期) 2 尾関(10期) B 丹羽(8期)  
(C 谷村 12期)

平成20年9月1日付け 朝日新聞より

「一番ひかっているものってなんだろう？」  
(2008年前半ボート部活動状況)

ボート部顧問 片山 元

2008年シーズンの始まりは4月の中日本レガッタでした。クルー編成は、3年生が男子3名、女子1名のみであることから、男子はダブルスカルとシングルスカル、女子は必然的にシングルスカルにして臨みました。ダブルスカルは、猿投農林高校がメンバーの入れ替えも含めて力を付けてきており、このレガッタは総体県予選の前哨戦でもありました。猿投農林が準決勝を1位で通過したのに対し、旭丘が5位で敗退でした。5月の諏訪湖レガッタでは準決勝で直接対決があり、約3秒差で負けていました。しかし、決して自信を失うことなく、昨年の総体県予選で負けた理由をしっかりと分析して練習していました。前年にインターハイ出場が途切れて、それを取り戻そうと必死だったと思います。

いよいよ総体県予選の日がきました。男子シングルスカルが準決勝で沈をして除外になるアクシデントがあり、女子シングルスカルが決勝で力及ばず3位。残されたダブルスカルの決勝です。スタートの1本目が良く、その差を最後まで守り続け、猿投農林の追い上げを振り切って堂々と1位でゴールしました。選手は「当然の結果です」と粋がっていましたが、インターハイ出場を取り戻して、正直ほっとした思いでした。その後国体の県予選では、男子1名がダブルスカルの愛知選抜に選ばれ、毎日遅くまで乗艇練習して本国体を目指しましたが、東海ブロック予選会で敗れ、おおいた国体に出場することはできませんでした。

「彩夏到来08埼玉総体」の愛称で、8月にインターハイが戸田オリンピックコースで開催されました。開会式で、東京オリンピック以来、このコースの水の入れ替えが為されていないことを知りました。漕友の皆様はご存知でしたでしょうか。また近年水質浄化のためにイケチョウ貝が放たれ、それが真珠の養殖にも一役買っているとのことです。そして優勝者にはこの「戸田パール」を進呈といった粋な計らいもありました。さて、競技の方は予選を2位で勝ち上がり、準々決勝に進出しました。逆流の中、スタートに出遅れ、挽回しようとピッチをあげて精一杯漕ぎましたが追いつくことができず、5位に終わりました。「全力を出し切りました」「お疲れさん」「……」肩をたたき「よく頑張った」。

今年は北京オリンピックがあり、NHKからはそのテーマソングが流れていました。

とっても勇気づけられる曲で気に入っています。「一番ひかっているものってなんだろう？」との曲の問いかけに、「『戸田パール』もそうなんだけれども、それだけではないんだよね。」と欲張りに自答してみたりして。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。



インターハイ 準々決勝レース（戸田オリンピックコース）にて  
S 加藤進介くん（3年） B 三木卓也くん（3年）

### 2008 年度 漕友会費および寄付金のお願い

漕友会活動ならびに現役支援強化を致したく、年会費 5 千円  
ならびに寄付金のご協賛を賜りますようお願い致します。

〔 会費、寄付金の納入につきましては、同封の郵便振替  
用紙にてお願い致します ）

## ローイング練習に参加しませんか！！

ボートはユースから80歳以上のシニアまで楽しめるスポーツです。旭漕会では中川運河又は勘八峡で毎週土曜日に練習をしています。一回限りでも結構です。気軽に参加してください。

### 〔練習種目〕

ナックルフォア  
シェルエイト  
シェルフォア  
ダブルスカル等です。

集まった人数で組み合わせます。9人以上集まればエイト。7人だったらシェルフォアとダブルスカルという具合です。試合の前はナックルフォアです。試合は大抵ナックルで出ます。

### 〔練習場所〕

9月、10月、11月は豊田市の勘八峡「トヨタ自動車艇庫」内、又は「中川運河港漕艇センター（旭丘高校艇庫）」で行っています。9時半集合です。参加希望者は練習場所を前日でもいいですからレース担当幹事 伊藤壽洪まで聞いてください。

〔連絡先〕 伊藤壽洪（12期） E - メール [hisahiro@gakusen.ac.jp](mailto:hisahiro@gakusen.ac.jp)  
携帯電話 090-9928-3153